回覧

令和８年９月発行　第１４６号

# ラポールの正体は!?

「あの人に任せておけば大丈夫だ。」「あの人が言うんだから間違いない。」皆さんの周りにそうした人はいますか？思い浮かびますか？

フランス語で「橋を架ける」を意味し、臨床心理学や医療、介護・看護の場面では、互いに信頼し合い、安心して心を通わせ合っている関係をラポールと言います。つまり、あの人に任せられる、あの人が言うことは正しい、そう思えるのは、このラポールが形成されている証拠です。そう考えると介護の場面では、このラポール形成がとても重要であることは何となく察しがつくのではないでしょうか。

信頼関係があるから



食事が毎日の楽しみなの。
美味しくご飯が食べられます。

信頼関係があるから



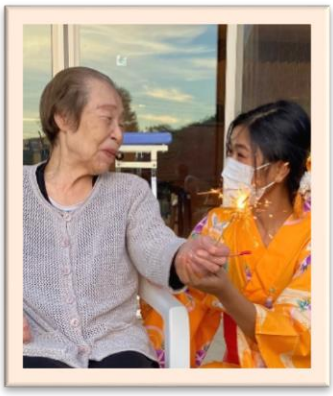
お風呂は大好き。
湯船に浸かってうんとリラックス。

信頼関係があるから



安心して車いすの操作を
任せることができるの。

信頼関係がないと、「私に何をたべさせようとしているのかしら（汗）」「この人に裸を見られたくない。恥ずかしいわ（涙）」「どこに連れて行こうとしているの？怖いわ（震）」になりかねません。



## ラポールの本質は単なる「仲良し」ではありません。

皆さんはどういった時に、どういったことで人や物を信頼しますか？

私たち職員が大切にしていること、しなければならないことは、ご利用者の話を丁寧に聴くこと、その人らしさを理解しようとすること、約束を守り、安心感を積み重ねることです。日々の小さな関わりの積み重ねによって信頼関係は育まれます。それは安全に車いすを操作する技術だけではなく、しっかりと説明すること、同意を確認すること、意思の尊重などを積み重ねることで、安心して身を委ねられる、委ねてもらうことができるようになります。

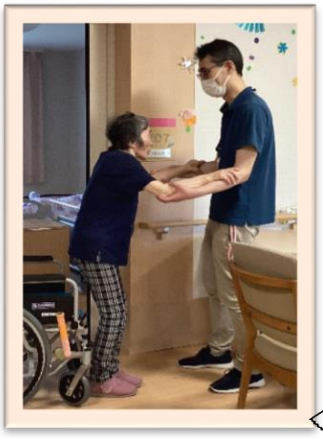
私たちが大切にしている「ひとりと向きあう。」という考え方。この人は自分を大切にしてくれているという実感が生まれた時に、ラポール＝信頼関係は成立するのだと思います。

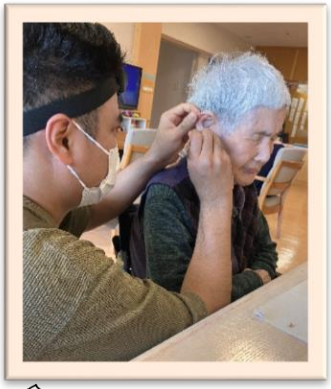
ラポール、その正体は、相手を理解しようとする誠実な関わりの積み重ねです。

## 次回の認知症カフェは９月２９日（火）オープンです。

決して多くはない参加者数ではありますが、ご参加の皆さまからは好評をいただいています、認知症カフェ「オレンジカフェきらり」。

毎月第三火曜日に開催していますが、9月は都合により、29日（火）10時00分のオープンとなります。美味しいコーヒーと笑顔で皆さまのお越しをお待ちしております。





耳垢取りも立ち上がりのお手伝いも
信頼関係があってこそです。

# きもべつ喜らめきの郷　るすつ銀河の杜　喜らめき銀河タイムス

発行責任者施設長　木下　雄一

社会福祉法人渓仁会　経営理念

一．安心・安全
二．信頼・満足
三．地域に貢献

ひとりと向きあう。

社会福祉法人 渓仁会

# 「楽しみ」と「生きがい」のある暮らし

～好きなこと、できること、人とのつながりを大切に～



## ①楽しみが毎日に彩りを　～好きなことが笑顔につながる～



施設での暮らしを豊かにするためには、毎日の楽しみが欠かせません。手芸や塗り絵、書道、園芸、カラオケなど、一人ひとりの好きな活動は心を元気にし、生活に張りをもたらします。特に懐かしい歌を歌う時間は、昔の思い出を振り返るきっかけとなり、自然と会話や笑顔が広がります。また、季節の行事やおやつ作りなども楽しみの一つです。日々の暮らしの中に「楽しい」「またやってみたい」と思える時間があることは、心豊かな生活につながります。

## ②地域とのつながりが元気の源

～交流が生む笑顔と生きがい～





人とのつながりは、暮らしを支える大切な力です。地域の方々との交流や子どもたちとのふれあいは、多くの入居者の皆さんに笑顔と元気を届けてくれます。

## ③生きがいは「役割」から

～誰かの役に立つ喜び～




日常の中でお手伝いをしていただくことで、「ありがとう」と感謝の言葉を受け取る機会が生まれます。その積み重ねが自信や達成感につながり、「まだできることがある」「必要とされている」という生きがいを育みます。

**【接遇意識を高める標語。目線を合わせ 100％敬語。】**